

坂本龍一 | 音を視る 時を聴く 2024年12月21日(土) - 2025年3月30日(日)



音を視る 時を聴く  
坂本龍一  
seeing sound, hearing time  
Ryuichi Sakamoto

2024.12.21 - 2025.3.30

会場：東京都現代美術館 企画展示室1F/B2F

休館日：月曜日(1月13日、2月24日は開館)、12月28日-1月1日、1月14日、2月25日

開館時間：10:00-18:00(展示室入場は開館の30分前まで)

観覧料：一般2,400円/大学生・専門学校生・65歳以上1,700円/中学生1,100円/小学生以下無料

\*20名様以上の団体は2割引になります。\*本展チケットでMOTコレクションもご購入いただけます。

主催：公益財団法人東京都市文化財団 東京都現代美術館、毎日新聞社、テレビ朝日 | 協賛：カカオコム、デジタルガレージ、東野レオ、NISSHA、ニューバタンスジャパン、山田健輔  
特別協力：KAB Inc.、KAB America Inc.、タムタイムオフィス、エイベックス・エンタテインメント、タイボレーズ、タナナリ、東野レオ、ホトスタジアムミュージアム、ユニクロ  
協力：J-WAVE | 助成：文化庁・令和6年度後援国アートのグローバル展開推進事業 | 機材特別協力：イースタンサウンドファクトリー | 技術協力：ヘキサゴンジャパン  
機材協力：アートワイズ、カラーネティクスジャパン、ブリックス



東京都現代美術館  
〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1  
03-5245-6000 (内線ダイヤル)  
Museum of Contemporary Art Tokyo  
4-1-1 Miyoshi, Koto-ku, Tokyo 135-0022  
TEL: 03-5245-6000 (Hello MOT)  
www.mot-art-museum.jp



\*観覧料は、都合により変更になる場合があります。予めご了承ください。  
\*All programs are subject to change.

コラボレーションアーティスト:

高谷史郎  
真鍋大度  
カールステン・ニコライ  
アピチャポン・ウィーラセタクン  
Zakkubalan  
岩井俊雄

スペシャル・コラボレーション:

中谷英二

Collaboration Artists:

Shiro Takatani  
Daito Manabe  
Carsten Nicolai  
Apichatpong Weerasethakul  
Zakkubalan  
Toshio Iwai

Special Collaboration:

Fujiko Nakaya

01 「坂本龍一 | 音を視る 時を聴く」展 ポスタービジュアル

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・稲葉・内堀・野川

TEL：03-5245-1134 (直通) / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。



東京都現代美術館では、このたび音楽家・アーティスト、坂本龍一（1952-2023）の大型インスタレーション作品を包括的に紹介する、日本では初となる最大規模の個展「坂本龍一 | 音を視る 時を聴く」を開催いたします。坂本は 50 年以上に渡り、多彩な表現活動を通して、時代の先端を常に切りひらいてきました。90 年代からはマルチメディアを駆使したライブパフォーマンスを展開し、さらに 2000 年代以降は、さまざまなアーティストとの協働を通して、音を展示空間に立体的に設置する試みを積極的に思考、実践しました。本展では、生前坂本が東京都現代美術館のために遺した展覧会構想を軸に、坂本の創作活動における長年の関心事であった音と時間をテーマに、未発表の新作と、これまでの代表作から成る没入型・体感型サウンド・インスタレーション作品 10 点あまりを、美術館屋内外の空間にダイナミックに構成・展開します。これらの作品を通して坂本の先駆的・実験的な創作活動の軌跡をたどり、この類稀なアーティストの新しい一面を広く紹介いたします。

坂本龍一の「音を視る、時を聴く」ことは、鑑賞者の目と耳を開きながら、心を揺さぶり、従来の音楽鑑賞や美術鑑賞とは異なる体験を生み出します。坂本が追求し続けた「音を空間に設置する」という芸術的挑戦と、「時間とは何か」という深い問いかけは、時代や空間を超えて、私たちに新たな視座をもたらし、創造と体験の地平を開き続けてくれることでしょう。

**コラボレーション・アーティスト** | 高谷史郎、真鍋大度、カールステン・ニコライ、  
アピチャップン・ウィーラセタクン、Zakkubalan、岩井俊雄  
**スペシャル・コラボレーション** | 中谷芙二子

## 展示構成

---

### ■企画展示室 1 階

坂本龍一 + 高谷史郎 《TIME TIME》2024（新作）

坂本龍一 + 高谷史郎 《water state 1》2013

坂本龍一 + 高谷史郎 《IS YOUR TIME》2017/2024

カールステン・ニコライ 《PHOSPHENES》《ENDO EXO》2024（新作）音楽：坂本龍一

### ■企画展示室 地下 2 階

坂本龍一 + アピチャップン・ウィーラセタクン 《async-first light》2017

アピチャップン・ウィーラセタクン 《Durmiente》2021（日本初公開）

坂本龍一 + 高谷史郎 《async-immersion tokyo》2024

坂本龍一 + Zakkubalan 《async-volume》2017

坂本龍一 + 高谷史郎 《LIFE-fluid, invisible, inaudible...》2007

\*アーカイブ特別展示：1996-97 年のパフォーマンスを再現した新作インスタレーション

坂本龍一 × 岩井俊雄 《Music Plays Images X Images Play Music》1996-1997/2024（初公開）

### ■中庭（1 階/屋外）

坂本龍一 + 真鍋大度 《センシング・ストリームズ 2024-不可視、不可聴（MOT version）》2024

### ■サンクン・ガーデン（地下 2 階/屋外）\*スペシャル・コラボレーション

坂本龍一 + 中谷芙二子 + 高谷史郎 《LIFE-WELL TOKYO》霧の彫刻 #47769 2024（新作）

---

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・稲葉・内堀・野川

TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。



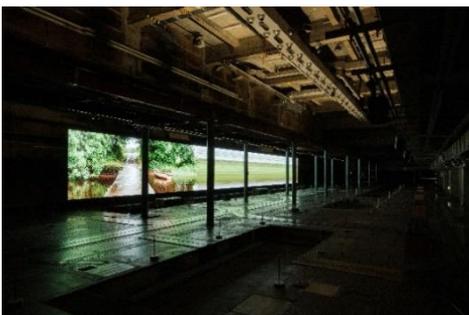
## 坂本龍一＋高谷史郎

両氏のコラボレーションによる作品5点を展示します。

坂本が2011年の東日本大震災の津波で被災した宮城県農業高等学校のピアノに出会い、それを「自然によって調律されたピアノ」と捉え作品化した《IS YOUR TIME》(2017/2024)。大自然の営みによって一つのモノに還ったピアノが世界各地の地震データを使って、地球を鳴動する装置として生まれ変わります。



坂本と高谷のインスタレーションには水や霧が重要な要素として繰り返し登場します。2007年に発表された代表作《LIFE-fluid, invisible, inaudible...》(2007)は、坂本のオペラ『LIFE』(1999)をベースとするサウンドに包まれた空間に、頭上に浮かんだ9つの水槽が明滅する中を、庭を散策するようにしばし佇みながら、ゆっくりと歩み、従来のリニアな体験とは異なる時空間の拡がりや流れを体感できるインスタレーション作品です。《water state 1》(2013)、そして本展にあわせて制作された《async-immersion tokyo》《TIME TIME》(いずれも2024)も展示します。



02 上) 坂本龍一＋高谷史郎 《IS YOUR TIME》2017/2023年

「Ryuichi Sakamoto | SOUND AND TIME」展示風景、成都木木美術館（人民公園館）、2023年  
画像提供：成都木木美術館

03 中) 坂本龍一＋高谷史郎 《LIFE-fluid, invisible, inaudible...》2007/2023年「Ryuichi

Sakamoto | SOUND AND TIME」展示風景、成都木木美術館（人民公園館）、2023年  
画像提供：成都木木美術館

04 下) 坂本龍一＋高谷史郎 《async-immersion 2023》2023年

「AMBIENT KYOTO 2023」展示風景、京都新聞ビル地下1階、2023年  
Photo by Satoshi Nagare

## 「async」シリーズ

坂本は、2017年にリリースされたアルバム『async』をきっかけに、同アルバムを「立体的に聴かせる」ことを意図し、Zakkubalan、アピチャッポン・ウィーラセタクン、高谷史郎らとインスタレーション作品を制作しました。

Zakkubalan とのコラボレーション作品《async-volume》(2017)は、『async』制作のために坂本が多く時間を過ごしたニューヨークのスタジオやリビング、庭などの断片的な映像が、それぞれの場所の環境音とアルバム楽曲の音素材をミックスしたサウンドとともに一つのインスタレーションとして構成された作品です。24台のiPhoneとiPadが壁に配され、鑑賞者は世界に開かれたたくさんの“小さな光る窓”を通して坂本の内面を覗き込むような、あたかも胎内にいるような感覚に囚われます。



05 坂本龍一＋Zakkubalan 《async-volume》2017年

「Ryuichi Sakamoto | SOUND AND TIME」展示風景、成都木木美術館（人民公園館）、2023年  
画像提供：成都木木美術館

タイの映画監督・アーティスト、アピチャップン・ウィーラセタクンとのコラボレーション作品《**async-first light**》(2017)において、坂本は「Disintegration」「Life, Life」の2曲を映像用にアレンジしました。「デジタルハリネズミ」と呼ばれる小型カメラを親しい人たちに渡して撮影してもらった映像で構成された本作は、解像度が低く粗い画面に独特の温かみのある色味でそれぞれの私的な日常が切り取られています。

音楽を空間に立体的に設置する「設置音楽」のコンセプトに沿って、アルバム『**async**』の楽曲を使ったいくつかのインスタレーション作品を制作している坂本と高谷。

《**async-immersion tokyo**》(2024)は、坂本の没後にこれまでの「async」シリーズを深化させた形で **AMBIENT KYOTO 2023** で発表した大型インスタレーションを東京都現代美術館の展示空間にあわせて再構成する新作です。

### 坂本龍一＋真鍋大度

真鍋大度とのコラボレーション《**センシング・ストリームズ 2024-不可視、不可聴 (MOT version)**》は、携帯電話、WiFi、ラジオなどで使用されている電磁波という人間が知覚できない「流れ(ストリーム)」を一種の生態系と捉えた作品です。今回の展示のために屋外に16mに渡って延びる帯状のLEDディスプレイを用い、常に変貌を遂げる東京という大都市の目に見えないインフラの姿を映像と音で描き出します。



06 坂本龍一＋アピチャップン・ウィーラセタクン  
《**async-first light**》2017年「Ryuichi Sakamoto | SOUND AND TIME」展示風景、成都木木美術館(人民公園館)、2023年  
画像提供：成都木木美術館



07 坂本龍一＋真鍋大度《**Sensing Streams 2021-invisible, inaudible**》2021年  
「seeing sound, hearing time」展示風景、木木美術館(錢糧胡同館)、北京、2021年  
画像提供：M WOODS photography team



08 中谷芙二子《**ロンドンフォグ**》霧パフォーマンス #03779、2017年「BMW Tate Live Exhibition: Ten Days Six Nights」展示風景、テート・モダン、ロンドン、英国  
コラボレーション：田中泯(ダンス)、高谷史郎(照明)、坂本龍一(音楽) 撮影：越田乃梨子

### スペシャル・コラボレーション

1970年に大阪万博のペプシ館を水を使った人工の霧で覆った「霧の彫刻」で知られ、世界各地で霧のプロジェクトを実施している中谷芙二子とのスペシャル・コラボレーション。坂本龍一＋中谷芙二子＋高谷史郎《**LIFE-WELL TOKYO**》霧の彫刻 #47662は、東京都現代美術館屋外のサンクンガーデンを使って、霧と光と音が一体となった、自然への敬愛や畏怖の念を想起させるような夢幻のシンフォニーを奏でます。

## イベント

---

会期中に参加作家によるトークなど関連プログラムの開催を予定しています。  
参加方法・詳細は当館ウェブサイトで順次公開いたします。

## 先行企画

---

11月28日(木)から12月1日(日)の4日間にわたって東京都現代美術館にて開催する第14回 TOKYO ART BOOK FAIR で、本展に先駆け、「坂本図書」による図書にまつわる展示「坂本図書分室」を実施します。

「いつか古書店の店主になるのが夢だった」と語るほど、無類の本好きとして知られる坂本龍一が2017年から準備を進めていた、自身の本を多くの人と共有するための図書構想「坂本図書」。昨年9月には、坂本龍一の所蔵していた本を読むことができる図書空間「坂本図書」が都内某所に開館しました。TABFでは、坂本龍一が晩年に愛した私物書籍の一部、実際に使用していた家具などの読書空間が再現されるほか、「坂本図書」で所蔵している書籍と同タイトルの古書・オリジナルグッズの販売を行います。「坂本図書」としての外部出展は今回が初めてとなります。坂本龍一がどのように本に向き合っていたのか。坂本自身の創作や思考の糧となった本の数々から、追体験いただく取り組みです。

企画：一般社団法人坂本図書／協力：Kab Inc.

## プロフィール

---

### 坂本龍一 (SAKAMOTO Ryuichi／音楽家)

1952年、東京都生まれ。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年「Yellow Magic Orchestra」結成に参加し、1983年の散開後も多方面で活躍。映画『戦場のメリークリスマス』(83年)の音楽では英国アカデミー賞、映画『ラストエンペラー』の音楽ではアカデミーオリジナル音楽作曲賞、グラミー賞、他を受賞。環境や平和問題への取り組みも多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を立ち上げるなど音楽を通じた東北地方太平洋沖地震被災者支援活動も行った。1980年代から2000年代を通じて、多くの展覧会や大型メディア映像イベントに参画、2013年山口情報芸術センター(YCAM)アーティスティックディレクター、2014年札幌国際芸術祭ゲストディレクターを務める。2018年 piknic/ソウル、2021年 M WOODS/北京、2023年 M WOODS/成都での大規模インスタレーション展示、また没後も最新のMR作品「KAGAMI」がニューヨーク、マンチェスター、ロンドン、他を巡回するなど、アート界への積極的な越境は今も続いている。2023年3月28日、71歳で逝去。

## 展覧会概要

会期	2024年12月21日(土) - 2025年3月30日(日)
開館時間	10:00 - 18:00 (展示室入場は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日(1月13日、2月24日は開館)、12月28日-1月1日、1月14日、 2月25日
会場	東京都現代美術館 企画展示室 1F/B2F ほか(東京都江東区三好4-1-1)
観覧料	一般2,400円/大学生・専門学校生・65歳以上1,700円/中高生960円 小学生以下無料
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館、朝日新聞社、テレビ朝日
協賛	カカココム、デジタルガレージ、東邦レオ、NISSHA、ニューバランスジャパン、 山田養蜂場
特別協力	KAB Inc.、KAB America Inc.、ダムタイプオフィス、 エイベックス・エンタテインメント、ケイ・ガレージ、タケナカ、東邦レオ、 ホットスタッフプロモーション、ユニクロ
協力	J-WAVE
助成	文化庁・令和6年度我が国アートのグローバル展開推進事業
機材特別協力	イースタンサウンドファクトリー
技術協力	ヘキサゴンジャパン
機材協力	アートウィズ、カラーキネティクス・ジャパン、ブリックス

ゲストキュレーター	難波祐子
担当学芸員	森山朋絵(東京都現代美術館 学芸員)
学芸スタッフ	原田美緒(東京都現代美術館 学芸員)

お問い合わせ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
展覧会ウェブサイト	<a href="https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/RS/">https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/RS/</a>

同時期開催の展覧会 ————— 会期：2024年12月14日(土) - 2025年3月30日(日)

- ・MOT アニュアル2024 こうふくのしま
- ・MOT コレクション

## 広報用図版

広報用図版として計9点をご用意しております。画像の利用は、展覧会の広報・紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（デジタルメディアを含む）の記事内のご使用に限ります。お貸出しをご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール（[mot-pr@mot-art.jp](mailto:mot-pr@mot-art.jp)）にてご連絡ください。

**必要事項** 御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

### 貸出条件

- 画像には作品情報（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、色彩変更、編集その他の改変はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトのURL、DVD、CD等をお送りください。
- 記事の転載その他のお貸出しした画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。

※作品画像はすべて参考画像です。



09 Photo by Neo Sora ©2017 Kab Inc